

必守会 子どもたちの安全を願って

ランドセル型の反射根付けを寄贈していただきました



▲必佐幼稚園の子どもたちへ



▲必佐小学校の子どもたちへ



▲ストラップのようなもので、ランドセルは赤・青・黄色の3色あります。光が当たるとひもの部分が光ります

このたび、必守会（村島茂男会長）から、ランドセル型の反射根付けを必佐小学校に330個、必佐幼稚園に140個寄贈していただきました。

1月19日には、必佐小学校で寄贈式が行われました。

必守会では、日ごろから安全パトロールに従事していただいています。この根付けは、必佐守るといふ必守会の気持ちを込めて、必守会会員の方々の寄附により購入し、寄贈していただきました。

子どもたちの安全のため、有効に使わせていただきます。ありがとうございます。

感雑向綿

日野町長 藤澤直広

梅の香りがた
だよう春3月。
この冬、綿向山
にたくさん降つ
た雪も次第に解
けだすことでし
う。寒い冬から
暖かい春へ。寒
さに震えていた

草々も新しい芽を出し、花を咲かせます。アフリカのチュニジアに端を発した民衆の反政府行動はエジプトにも広がり花を咲かせました。首都カイロの広場で何万人もの反政府デモや集会が連日繰り広げられ、ムバラク政権が崩壊しました。民衆の力に敬服します。これから自由で民主的な国をつくることや格差や貧困をなくすことなど課題は山積していますが、平和的な手法で新しい国づくりが進められることを期待したいと思います。

日本でも民衆の力によって変化が起きています。議会を開かず、勝手に専決処分を繰り返したワシントン市長で注目された鹿児島県阿久根市では、市長解職（リコール）を受けた市長選挙で住民運動のリーダーが30歳代の若さで当選されま

した。国民が、住民が、力を合わせれば現状を変革することが出来ることが証明されました。しかし、いったんチェンジしてもその流れがまっすぐ進むとは限りません。「政権交代」から1年半が経過しましたが国政の現状は「逆戻り」の感があり、混迷の度合いを増しています。今、必要なのは、高校や大学を卒業しても職に就けない雇用不安の解消をはじめ格差と貧困の広がる社会を転換すること、誰もが安心して暮らせる社会をつくること。まっすぐに暮らしの改善に取り組むことです。そして、それは、かつての「小泉改革」だとか「政権交代」だとかスローガンばかりの「劇場型」の政治ではなく、また、大阪や名古屋のそれではなく、真に地に足をつけたものでなければなりません。そして、それを成し遂げるのは一人ひとりの国民であり住民です。紆余曲折（うよきょせつ）はあっても歴史を前に進めましょう。

3月は卒業シーズン。今年も熱く胸をふるわせ子どもたちが巣立っていきます。彼らの新しいスタートに希望に満ちた光がさすよう力を合わせましょう。